



幸せは「なる」ものではなく「気づく」もの？

校長 岩崎 撰也

今年の世相を表す漢字に「金」が選ばれました。その理由としては、東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が多数の「金」メダルを獲得したこと、大谷翔平選手が大リーグの MVP に選ばれたことや将棋の藤井聡太さんが四冠を達成したことなど、各界で数多くの「金」字塔が打ち立てられたこと、また給付金や新紙幣、新 500 円硬貨など、お「金」にまつわる話題が多かったことなどだそうです。

学校の 1 年を振り返ってみますと、去年に引き続きコロナウイルスに振り回されることが多かったと感じています。学校を休業するような事態にはならなかったものの、今年の前半は学校行事がほとんどできず、生徒たちにとって「色彩のない学校生活」と感じられる学校生活だったのではないかと思います。2 学期からはコロナウイルスの感染状況を確認し、感染対策を取りながら体育祭をはじめ、文化祭、修学旅行などの生徒たちが楽しみにしている学校行事を実施することができました。それぞれの行事の中で見せた生徒たちの生き生きとした表情、殻を破り成長する姿は鮮烈な印象を持って心に残っています。リーダーシップ、コミュニケーション能力、責任感、思いやりといった人として生きていくための大切な力（非認知的能力）は行事や体験活動など多様な場面の中で大きく育っていくことを改めて感じました。

本日無事に 2 学期の終業式を迎えましたが、保護者の皆様にはこの間、本校の教育活動へのご理解、ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。終業式では生徒たちに「幸せは気づくもの」という話をしました。精神科医のバク先生という人のお話です。この方は初め内科医だったのですが、激務の中で適応障害（ストレスによる心の病）になってしまいます。仲間が見舞いに来てくれても、「この人たちはちゃんと仕事できてうらやましい」という嫉妬しか感じられなかったそうです。有名なお店のバームクーヘンをお土産に持ってきてくれてもなぜか「これに手を出したら終わりだ」などとネガティブに考えます。でもある時、脳が甘いものを欲して恐る恐る食べてみると「普通のを食べられるってなんて幸せなんだ」と感じ、すごくおいしくて、泣きながら食べました。その後落ち着いて考えると、友人が仕事帰り、疲れているだろうに見舞いに来てくれることが幸せに思えてきます。そういう身の回りの幸せを無視して遠ざけていた自分に気づきます。このことを境に心が回復したバク先生は精神科医を志し、自分と同じようにしんどい思いをしている人たちを日々救っているそうです。「幸せ」かどうかは自分次第、今の自分にある「幸せ」に気づいて、感謝できることが人生を豊かに生きることにつながるという話をしました。

明日から 24 日間の長い休みに入ります。せっかくの長いお休みですので、普段できない体験をすること、ゆっくりと本と向き合うなど、心豊かに過ごしてほしいと思います。それぞれに充実した冬休みを過ごし、3 学期の始業式には生徒たちが元気な笑顔で登校してくれることを期待しています。それから、来る年が皆さまにとって幸多い年になることを祈念しております。どうぞ良いお年をお迎えください。

